

鮭は、川で生まれ、海に泳ぎ出ます。北太平洋や北極海の一部などで、最長で六年間過ごし、やがて成長した鮭は、再び生まれた川に帰り、産卵活動を行います。

鮭は、どんなに遠く離れた場所に行っても、生まれた場所をおぼえているのです。ふるさとを忘れることなく、帰ってきます。鮭のそのような習性を思った時、私たちの心の帰るところはどこなのだろうか、という思いがわいてきます。

私たちの心は、鮭が広大な海に泳ぎ出るように、常にどこかに出かけます。

それは、明日であったり、昨日であったり、過去の後悔であったり、未来の楽しみであったりします。また、ここではないどこか、職場であったり、遠い海外であったり、とにかくいろいろな時、いろいろな場所へ出かけていくのです。

しかし、実際に、私たちが生きているのは、「今」という時間、「ここ」という場所です。同時に、明日に存在することはできませんし、ここではないどこかに存在することはできません。私たちは常に「今・ここ」を生きているのです。

私たちの帰るところは、そこなのではないでしょうか。

もちろん、心がどこかに出かけること自体は、全く悪いことではありません。目の前になんか何かを思い描き、何かを作り上げる私たちの心の持つ力は、文明文化を育む原動力となりました。

心には、過去をかえりみ、未来をよりよくしようとする働きがあります。たとえ困難な状況にあっても、それを乗り越え、豊かに生きるための力があります。まるで鮭が北の海を泳ぎながら成長していくように。

そのためにも、「今・ここ」が大切なのだと思います。

『 禅のこころ -曹洞宗- 』

やぎじゆうきち
詩人八木重吉の「心よ」という詩があります。

「こころよ では いっておいで
しかし また もどっておいでね
やっぱり ここが いいのだに
こころよ ではいっておいで」

鮭のふるさとの川は、産卵をするいのちの場所です。そして、私たちの心の帰るところ「今・ここ」も豊かに生きるための力を得る「いのちの場所」です。

鮭がどんなに遠くにいても、ふるさとを忘れないように、私たちも、常に「今・ここ」といういのちの場所を忘れないようにしながら、豊かに生きていきましょう。

— 終 —